

深浦校舎図書だより

「大切なあなたへ薦める青春の一冊」に応募しよう！

皆さんに1年次の時から書いてもらっている本の紹介文は、県教育委員会の「大切なあなたへ薦める青春の一冊」の事業にならって実施していたものです。最後のチャンスなので全員で応募しましょう。これまで何度も紹介文を書いてきたと思いますが、300字以内でまとめなければならないので、本のあらすじを長々と書いてはだめです。印象的な場面やセリフ、内容を簡単に書き、後は自分の体験を交えて、紹介したい理由を書きましょう。



青少年読書感想文コンクール

今年度も「青少年読書感想文コンクール」の課題図書3冊を購入しました。ぜひ応募してください。

- 瀬尾まいこ著「そのドアをたたく音」 29歳、無職。夢はミュージシャン。人生に行き詰まっていた青年と、老人ホームで出会った「神様」との奇跡の夏が始まる。
- 隈研吾著「建築家になりたい君へ」 「ぼろい家」で育ち、建築家を夢見てアフリカやアメリカへ。難題だらけの仕事にどう挑むのか。日本を代表する建築家が今伝えたいメッセージ。
- 中村玄著「クジラの骨と僕らの未来」 骨格に興味を持ち、ペットの墓あばきから始まった少年の好奇心。ついに哺乳類最大のクジラの博士になるまでを生き生きと描く。



青少年読書感想文コンクール HP より

瀬

尾まいこ氏の作品の中では、「そして、バトンは渡された」が2019年の本屋大賞に選ばれ、昨年映画化されました。読んだことがない人もタイトルは聞いたことがあると思います。斉藤紫菜さんがゴールデンウィークにこの本を読んで紹介文を書いています。

「そして、バトンは渡された」(瀬尾まいこ／著) 斉藤紫菜

主人公の優子は、17年間の人生の中で、親の結婚や離婚のために苗字が4回変わったお話です。でも、一度も不幸になったと感じたことはありません。私は、優子は強い子だなって思いました。親が何回も変わると精神的に参って、辛くなると思うのに、家族や周りの人を受け入れ、たくさんの愛情を貰って成長していく姿に感動しました。私には家族が変わるという経験がなく、今の環境に恵まれているので家族のみんなに感謝したいと思います。

本と映画のどちらもあるので、ぜひ見てみてください。



隈

研吾氏は東京オリンピックのメインスタジアムである国立競技場のデザインに携わった建築家で、建物に木材を使ったデザインが特徴です。隈氏が設計した高知県梼原(ゆすら)町の「雲の上の図書館」(右写真)は、機会があったら行ってみたい図書館です。最近では日本テレビ「所さんの目がテン!」に出演して、里山が日本古来の建築にとって重要だという話をしていました。



中

村玄氏は、ダンゴムシから始まったいきもの好きが小学校、中学、高校と続き、東京水産大学(現東京海洋大学)資源育成学科を卒業しました。2014年より東京海洋大学海洋環境科学部門助教を務め、鯨類の形態学、とくにナガスクジラ科鯨類の骨格を専門としている方です。国際捕鯨委員会化学委員会委員も務めています。「クジラの骨と僕らの未来」より

ゴールデンウィーク中に読んだ本の紹介

ママがもうこの世界にいらなくても

(遠藤 和／著)

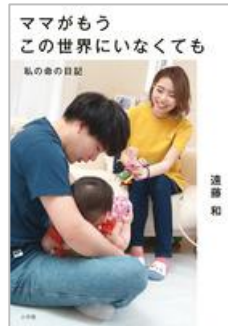
永谷来姫

この本を読み、私は今ある幸せを大切にしようと思えました。

平和な日々に突然病気が見つかりました。それも妊娠中でした。産むと決めても母子どちらも助からない可能性がありました。自分が同じ状況になったら、どうするのかなど想像もつきませんでした。でも、赤ちゃんを産むことを選んでいるのではないかと思います。結果として母子ともに無事出産することができましたが…。

この本自体が日記になっているので、本を読むのが苦手な人でも読みやすくなっています。

※著者の遠藤和さんは青森市出身



こぐまのケーキ屋さん、同 (そのに)

(カメントツ／著)

西崎未空・岩谷心愛良

くまが沢山はじめてのものと出会って、人間の生活をしていくような内容です。はじめてお金に触れて、はじめてクリスマスを楽しむくまにとっては、はじめてだらけの世界です。私はこの本を読んで、当たり前だと思っていることは実はとても幸せなことばかりなのだと感じました。今まで気づかなかったことばかりなのだと感じました。今まで気づかなかった普通のことも、この本のくまのおかげで見つけることができました。(西崎)

この本はケーキ屋さんの店長であるこぐまと店員さんの、何気ない日常が描かれています。店長が発した「違うことは、楽しいです」という言葉が印象に残っています。世の中から悪い差別がなくなしてほしいと私は考えているので、店長のような考えの人が増えてほしいと思います。何か考えるきっかけにもなる本だと思うので読んでみてください。(岩谷)

新着図書紹介

○宇佐見 りん／著 かか 『推し、燃ゆ』著者のデビュー作

壊れてしまった母(かか)を救うため、19歳の浪人生うーちゃんはある祈りを抱え熊野へ旅に出る。20歳の野性味あふれる感性で描き出す、痛切な愛と自立の物語。河出書房出版 HP より



○小坂 流加／著 余命 10年 今年映画化された作品

20歳の茉莉は、数万人に一人という不治の病にかかり、余命が10年であることを知る。笑顔でいなければ周りが追いつめられる。何かをはじめても志半ばで諦めなくてはならない。未来に対する諦めから死への恐怖は薄れ、淡々とした日々を過ごしていく。そして、何となくはじめての趣味に情熱を注ぎ、恋はしないと心に決める茉莉だったが……。

文芸社 HP より



○川上未映子／著 春のこわいもの

感染症大流行(パンデミック)前夜の東京——〈ギャラ飲み〉志願の女性、ベッドで人生を回顧する老女、深夜の学校へ忍び込む高校生、親友を秘かに裏切りつづけた作家……。東京で6人の男女が体験する甘美さあふれる地獄巡り。これがただの悪夢ならば、目をさませば済むことなのに。

新潮社 HP より



新着図書	その扉をたたく音	瀬尾 まいこ
	クジラの骨と僕らの未来	中村 玄
	建築家になりたい君へ	隈 研吾
	11cm たった1cmの差があなたの世界をがらりと変える	キム ウンジュ
	書店主フィクリーのものがたり	ガブリエル・ゼヴィン
	マスカレード・ゲーム	東野 圭吾
	春のこわいもの	川上 未映子
	レインツリーの国	有川 浩
	かか	宇佐見 りん
	余命 10年	小坂 流加
  	三千円の使いかた	原田 ひ香
	くるまの娘	宇佐見 りん